



JA道東あさひ

まきばの風

ほかほか

Community Magazine of JA Doutou Asahi

令和7年 新年挨拶号



酪農展望台からの日の出

目次 (contents)

- 代表理事組合長挨拶 ②
- 代表理事専務挨拶 ③
- JA北海道中央会会長挨拶 ④
- 普及センター所長・酪農試験場場長挨拶 ⑤
- 青年部長・女性部長挨拶 ⑥
- (株)ASAHI サポートセンター専務挨拶・1月の運勢 ⑦
- 第4回乳製品消費拡大写真コンテスト作品募集中! ⑧

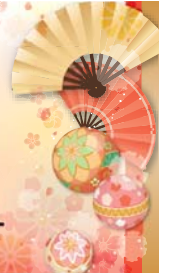




年頭にあたり

道東あさひ農業協同組合

代表理事組合長 浦山 宏一



新年あけましておめでとうござい
ます。

組合員の皆様には御家族お揃いで新しい一年の門出を迎えられました事とお慶び申し上げます。併せて、日頃より農協事業に対し深い御理解と御協力を賜り、感謝と御礼を申し上げます。

令和6年を振り返ってみますと、春先より比較的穏やかな天候に恵まれ、危惧されていた夏場の高温が想定された程でもなく、二番草収穫時期に周期的な雨が降り、刈り取りが遅れると言う事態はあったものの、総じて牧草地やデントコーンの生育や収穫は順調に進んだものと認識しています。

生乳生産につきましては、北海道として前年目標対比101%の403万tに設定し、当農協に於いては36万8,780tの配分が成され、2年続いた生産抑制から、生産基盤の毀損と回復と、生産意欲の向上を図るべく増産の方向に舵を切り、計画生産の基盤はありますが、目標達成の為、一丸となつて取り組んで来た所です。

一方、高止まりが続く配合飼料・生産資材や燃油価格等の上昇基調は常態化しており、加えて物流の2024年度問題も相まって、依然として厳しい生産環境の中、組合員の皆様には御苦労の多い一年であったと思えます。

農政をめぐる情勢であります、昨年5月には、農業の憲法とも言われる「食料・農業・農村基本法」が改正されました。この中には国、地方公共団体の責務・農業者や関連団

体の努力、消費者の役割とともに、国・公共団体による農業者の努力に対する支援を行うことが規定されています。又、食料安全保障の確保等の基本理念およびその実現を図る上で基本となる事項が定められています。

そして本年は、この基本法の理念に基づいて基本計画の策定が進められますし、酪農に於いては、酪農及び肉用牛生産の近代化に関する基本方針の策定も行われます。需給緩和やバターと脱脂粉乳の破行性という課題を抱える中、780万tの生産目標を変更するのか等も含め、食料・農業・農村基本法の目的の達成に資する形での策定を望むものでありますし、生産者に寄り添ったものになる様、働きかけに行くものでもあります。

この様に令和7年度は、農業そして酪農業界にとつて非常に重要な年になって参りますし、その結果が組合員個々の経営にも直接的或いは間接的に影響を及ぼして行くことも想定されます。組合員の皆様には、より一層厳しい環境への対応と次世代を見据えた経営戦略の構築をお願いするものでありますし、農協と致しながら、状況をしつかりと見極め打ちながら、打つべき対策はしっかりと与して参ります。

今、世界の情勢に目をやる時、長期化するウクライナ紛争や中東情勢の不安定化、中国経済の伸び悩みや韓国の政情不安、米国の新政権の方向に対する懸念やヨーロッパが各国

の政界の右派の台頭等、混乱する時代に突入した感があります。こうした状況は、複雑に絡み合いながら世界経済に大きな影響を与えますし、当然食料事情も危惧されます。食料自給率38%の我が国にとって、外国への依存度が高いことへの不安は、今まで以上に高まっています。「お金をいせば食料はいつでも輸入できる」。

かつては当たり前のように考えられていたのかもしれませんが、今は通用しません。中国による食糧の爆買い、ウクライナ紛争あるいは異常気象などにより、食糧や生産資材が思うように調達出来なくなった現実を私たちは突きつけられていますし、国内に目を向けても昨年の「令和の米不足」や鳥インフルエンザが拡大した時、物価の優等生だった卵が65%も値上がりし、しかも売り場の棚がスカスカだったのは、記憶に新しい所です。自分の国の食糧は自分達で作る、これは当たり前のことです。食料安全保障の確保が強く求められている今日だからこそ、私達は自信と誇りを持って生乳を生産し、酪農を確固たる地位の産業にしていかなければなりません。令和7年度の農畜産物価格と関連施策は、まだ決定されていません(12月17日現在)が、現状の課題を整理しながら10年後・20年後のこの地域の絵図をしつかりと描き、粘り強く政府に対して求めていかなければならないと強く思うものであります。

最後になりますが、令和7年、組合員皆様の御健勝と御多幸を御祈念申し上げます、年頭の御挨拶と致します。



足元を見つめて

道東あさひ農業協同組合
代表理事専務 田中博行

新年明けましておめでとうございます。組合員の皆様にはご家族と共に希望に満ちた新年を迎えられ、心よりお慶び申し上げます。

21世紀を迎えてから早いもので、四半世紀が過ぎました。この間多くの自然災害や紛争、感染症のパンデミックなど地域経済や組合員経営は大きな影響を受けてきました。その中でも長期間に亘り、影響を与える予測されているのが世界規模で進んでいる気候変動です。身近なところでは春作業の早まりや夏の猛暑、秋の残暑など飼料作物や畑作物の生育には好影響もありますが、牛への暑熱ダメージや吸血昆虫の生息域拡大による新たな感染症の発生、局地的な豪雨や降水量が増えることによる草地植生の悪化など酪農経営への影響が懸念されます。

一方、今月再登板する、米国トランプ大統領は国家主義による偏狭で排他的な政権運営を進めようとしています。トランプ大統領を生み出す米国、そして世界での立ち位置の変化にも目を向けなければなりません。米国に依存追随し、グローバル経済の中で恩恵を享受してきた日本経済は今後大きな影響を受けることが予想されています。

昨年、四半世紀ぶりに食料・農業・農村基本法が改正されました。今回の改定では世界的な食料情勢の

変化に伴う食料安全保障が主要テーマでした。農業者側からは農畜産物の国内生産の振興と大幅な自給率向上を求めましたが、至らなかつたのが実情です。今後、基本法を元に基本計画が策定され、より具体的な農業政策が示されます。

我々酪農家は日々、大自然と牛たちに向き合い、贖うことの出来ない現実を受け入れ、自らできる限りの力を自然や牛たちに注ぎ、経営を紡いでいますが、変化の振れ幅が今までに大きくなっていることを実感します。この地の酪農は地理的や厳しい自然条件の中、先人たちの苦勞の元、広大な草地基盤を活かした草地型酪農経営が発展してきました。

この基本的な形は今後も変わることはありません。面前の事象は大きく変化しても、基礎の部分がしっかりとしていれば経営は安定します。各自が目指す姿と現状とのギャップが課題です。課題が明確になれば解決は可能です。課題が見つからなければ経営外の視点も参考になります。

残念ながら組合員の減少は止めることが出来ていません。新規就農者も多くは望めないのが現状です。昨年、全国の受託酪農家戸数が一万戸を下回ったことが報告されました。特に本州の減少が大きく、数年後全国が生産量が70万トンを割り込むことが予想されています。消費者に安定的に良質の牛乳や乳製品を供給す

るのは酪農家の責務であり、北海道の中でも特に専業地帯への期待度は増します。生産組合員が減少する中、地域の生乳生産量を維持拡大していくことは簡単ではありません。考えなければならぬのは、今よりも草地、牛、人に負担をかけず維持拡大すること、どこかに負担を強いれば経営の継続は困難になります。答えはありませんが、解決策は広大で豊かな草地基盤にあると考えています。皆で知恵を出し合い協力しながら進んで行きたいと思えます。

困ったときには基本に立ち返る、私の基本は皆さんも読まれたことのあるであろう本の巻頭の言葉です。

「私達は、あなたのくださるものを食べ、飲ませてくださるものを飲み、住まわせてくださるところに住みます。良い牛にもなれば、悪い牛にもなります。丈夫にもなれば、弱くもなります。快適に暮らすこともできれば、不愉快にもなります。このように私達の運命は酪農家任せなのです。」(キーニーの牛飼哲学より)

初版は80年前に出版されたものですが、基本は変わらないと痛感します。

最後に、組合員並びにご家族皆様の御多幸を祈念申し上げ年頭のご挨拶といたします。



令和7年の年頭にあたり

北海道農業協同組合中央会
代表理事会長 樽井 功



新年あけましておめでとうござい
ます。

組合員の皆様におかれましては、
日々営農に更に邁進されておられる
ことと存じます。

また、組合員・役職員の皆様が一
丸となり地域農業の振興や地域社会
の発展に向け、日頃より多大なご尽
力をされていることに対しまして、
改めて敬意と感謝を申し上げる次第
であります。

昨年の北海道農業については、春
先から天候に恵まれ、各作物の生育
は全般的に平年よりも早く進んでお
りました。しかしながら、夏場は猛
暑・豪雨による記録的な高温多湿の
影響を受け、各作物等の収量および
品質に影響が出た年となりました。

近年、気候変動等による自然災害
の多発や栽培適地の変化、国際紛争
や急激な円安の進行による飼料・肥
料をはじめとした生産資材の高止ま
りが農業経営に甚大な影響を与えて
おり、農業・農村を取り巻く環境は
一段と厳しさを増しております。

昨年には、四半世紀ぶりに食料・
農業・農村基本法が改正され、現状
に即した基本理念の見直しと、「食料
安全保障の抜本的な強化」、「環境と
調和のとれた産業への転換」等の実
現が盛り込まれました。政府は、初

動5年間で農業構造転換集中対策期
間と位置づけ、施策を集中的に実行
するとともに、今年3月に食料・農
業・農村基本計画を策定するべく引
き続き検討を進めております。

JAグループ北海道としては、食
料安全保障の強化と持続可能な北海
道農業の確立のために、農地の確保
および適正利用の強化、食料・自給
飼料等の安定生産・供給と環境負荷
軽減の両立に取り組みながら、それ
を後押しする力強い政策支援を求め
ていくことが重要と考えております。

また、昨年は第31回JA北海道大
会が開催され、「食料安全保障の強化
と持続可能な北海道農業の確立」、
「JAの組織基盤の強化と健全な経
営基盤の確立」、「アグリアクション
北海道の推進による農業・食・JA
への理解醸成」の3つの議案を決議
いたしました。

今後、議案の達成に向けて、組合
員・JA・連合会が一丸となって、
生産現場の行動変容と組合員の意思
結集による農政運動、JAの経営管
理の高度化やデジタル化の推進によ
る業務効率化・生産性向上に取り組
んでいかなければなりません。

さらに、消費者の皆様には、JA
グループ北海道統一の情報発信のフ
レーズである「アグリアクション北

海道」を浸透させるとともに、効果
的な情報発信により、今まで以上に
農業・食・JAに対する理解を深め
ていただき、JAグループが提唱す
る「国消国産」の認知を広めてまい
りましょう。

結びになります。本年は巳年で
す。巳（へび）は冬眠から目覚め地
上に這い出すことから、冬に根を張
った草木が芽を出し「新しい種子が
生まれる」という意味があると言わ
れ、転じて、巳年は力を蓄えていた
ものが芽を出す「起点」の年、脱皮
する特性と併せ「再生と誕生」を意
味する年だと言われています。

この謂われにあやかり、本年が北
海道農業の飛躍の起首となること、
皆様のご多幸とご健勝をご祈念申し
上げ、年頭のご挨拶といたします。





新年のご挨拶

根室農業改良普及センター
所長 齊藤 博昭

新年明けましておめでとうございます。令和7年の新春を迎え、謹んでお喜び申し上げます。また、日頃より農業改良普及センターの活動に対し、ご理解とご協力を頂いておりますことに厚くお礼申し上げます。

さて、昨年の農作物生育状況を振り返りますと、天候は周期的に変動しましたが、総じて平年よりも気温はやや高く、降水量は8月以降でやや多かったものの少なく推移しました。それにより、牧草は1番草で生育が良好となり、収穫・調製も順調に進みましたが、2番草では、8月の降雨で収穫作業が遅れ、栄養価や品質への影響が懸念されます。サイレージ用とうもろこしは、栽培期間を通して気温が高めに推移したことで順調に生育し、収量や栄養価が高い良質な貯蔵飼料が確保されたのではないかと推測します。

酪農を取り巻く情勢は、ポストコロナ下での生産給調整や高止まりする生産資材の高騰など、依然と厳しい経営環境が続いている状況であり、持続可能な酪農経営に向けて早急な対策が必要とされています。

そのような中、日本農政の憲法ともいえる「食料・農業・農村基本法」が昨年5月に四半世紀振りに改正され、日本の農業を取り巻く情勢変化に対応した国の基本理念が見直されました。それに準じて、北海道においても農業・農村が直面しているさまざまな課題の解決に向けて、具体的に対策するための推進計画が策定されることになっていきます。

農業改良普及センターとしても微力ながら、当地域の皆様と目標を共有し、「地域や農業者とともに歩む普及」として活動をして参りたいと考えております。

本年も皆様にとりまして良き一年となりますことをご祈念申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。



新しい一年の始まりに

北海道立総合研究機構酪農試験場
場長 杉本 昌仁

新年明けましておめでとうございます。JA道東あさひ組合員並びに職員の皆さんには、日頃より当場の試験研究にご協力いただき深く感謝を申し上げます。

さて、新年早々暗い話で恐縮ですが、昨年12月3日発行の日本農業新聞の一面トップに「酪農1万戸割れ」という記事が掲載されました。全国の酪農家戸数が昨年10月時点で9,960戸まで減少したという内容でした。15年前に比べると半減したと書かれています。多くの酪農家は経営状況が悪化しており、6割は赤字状態であると指摘されています。

経営状況を厳しくしている原因としては生産費の上昇で、生乳価格の引き上げが生産コストの上昇に追いついていないのが実態と分析されています。それにはやはり急速に進んだ円安の影響が大きく、円安は飼料のみならず電気や燃料価格にも上昇圧力が加わることから、規模が大きく機械化や自動化が進んでいる北海道酪農こそ難局に直面しているのかもしれない。

こうした中、当場でも生産コストを押さえるための新技術開発に力を入れています。最近では、機械換気システム運転の最適化や高収量の牧草・飼料作物品種の選定、あるいは分娩間隔短縮のための繁殖管理技術の開発などを進めてきました。そして、これら新技術については、今後も引き続きこの広報誌「ぼかぼか」を通じて広く迅速に皆さま方へ情報提供できるように取り組んでいきたいと考えています。当場は3年後の令和9年に創立100周年を迎えます。今までの100年がそうであったように、これからも私たちは技術で皆さんのお役に立てるよう努力してまいります。

年始から暗い話をしてしまいました。一方で、「人間万事塞翁が馬」ともいいます。少し楽観的に明るい未来も想像しつつ、令和7年が皆さんにとっても地域社会全体にとっても実り多い一年になることをご祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。



新年のご挨拶

道東あさひ農業協同組合青年部
部長 久末 彰 真



新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、令和7年の新年を一つがなく迎えのことと心よりお喜び申し上げます。また、日頃より青年部事業に対しましてご家族、組合員、関係機関の皆様方にはご理解とご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。昨年を振り返りますと、牧草収穫期は概ね好天に恵まれ、良質な粗飼料を確保出来たことと存じます。一昨年の酷暑を受けて各自で暑熱対策を講じたこともあり、夏場も幾分過ごしやすく推移したのではないのでしょうか。

酪農情勢については、乳価の上昇によりいくらか収入面は改善してきたものの、低調に推移する個体販売価格や、記録的な円高や依然として続く不安定な国際情勢による資材費や生産コストの高止まりで、まだまだ厳しい酪農情勢が続いております。

青年部事業につきましては、青年部本部においては、例年行っている釧路教育大生のファームステイ事業に参加したり、役員の視察研修で関東方面を訪問したりと精力的に活動して参りました。

冬期におきまして、北海道青年部大会への参加や、年明けも東北北海道ブロック大会への参加や、道内視察研修を予定しております。各支部におきまして、各地域イベントへの参加やうし焼きの提供、支部ごとの視察研修の実施など、活発に活動して参りました。今年は青年部の役員改選を控え、体制も新たに精力的に青年部活動に取り組んで参ります。

最後になりますが、本年も青年部活動に対しましてご理解とご協力を賜りますと共に、皆様のご健康とご多幸をご祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。



新年のご挨拶

道東あさひ農業協同組合女性部
部長 青木 一 枝



新年あけましておめでとうございます。組合員をはじめ、農協・各関係機関の皆様におかれましては、女性部活動に格別のご理解とご協力をいただいておりますことに、心よりお礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、記憶に新しい石川県能登半島地震をはじめ、大雨や台風などの自然災害や鳥インフルエンザなどが全国各地で発生しました。

酪農情勢についても、配合飼料・生産資材の価格が高止まり状態となっており、酪農を考えている酪農家も少なくありません。国内の酪農家も1万戸を割ると報道されておりました。

別海町の基幹産業である酪農を支える私たち女性部は、支部の活動を中心に進めています。支部ごとに、各々活動しており、勉強会の開催や趣味を活かしたものづくり、イベントへの積極的な参加、旅行へ行ってきた支部もありました。4支部全体の活動としてコロナ禍で見送られていた視察研修旅行にも行くことができました。忙しくなる前の5月に九州地方の視察の計画を立て、多くの部員が参加し、支部間の交流もしっかりとできたようです。

今後も私たち女性部は、色々なアイデアを出して女性らしい女性部として活動を進めていきたいと思っております。

最後になりますが、今年も私たち女性部に変わらぬご指導・ご協力をお願いすると共に皆様のご健康とご多幸を御祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶

株式会社ASAHIサポートセンター 取締役専務 小島 友喜



新年あけましておめでとようございます。皆様におかれましては、輝かしい新年をご家族お揃いで迎えのこととお慶び申し上げます。

本年も皆様にとりまして、実りの多い一年となりますようご祈念申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、人材の確保を最優先に取り組みましたが、酪農ヘルパー等酪農関連の仕事希望する人は極端に減ってきており、府県の会社説明会への出展や学校訪問を行っても結果につながっておらず、定期的な休日の取得については利用者の皆様の要望に応えられない状況が続いており、本年度においても継続的な重点課題と考えております。

コントラ事業では、受託作業の中でも除草作業の面積は大幅な増加となりました。

中でもギンギン防除は、草地の除草面積の3割を超えるまでに増え、裸地化対策の追播作業の申込も多くありました。

近年の温暖化の影響もあり、ギンギンが占有している草地を多く目にしており、年々増加しているという印象でもあります。

乳価の値上げはあるものの農家経済は厳しい状況が続いておりますが、少ないコストで生産者がコントロールできる取組みの一つとし、雑草対策による植生改善や、雑草の侵入を抑制し更新年限を伸ばす取り組み等、早い段階での措置が大事であり、圃場確認のため草地に足を運び初期段階での継続的な対応が欠かせないと考えております。

本年も利用者の皆様の要望に少しでも応えられるよう、更なるサービスの向上に努めて参りますので、より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

皆様のご健康とご多幸をお祈りし、新年のご挨拶とさせていただきます。

1月 今月のあなたの運勢 モナ・カサンドラ

<p>牡羊座 3/21~4/19 </p> <p>全体運 厳かな一年の幕開けです。味方が多いので面倒事もクリアしていきます。順に対処しましょう。映画、演奏会にツキ</p> <p>健康運 体の不調に気付きにくいとき。無理はしないで</p> <p>幸運の食べ物 フキのとう</p>	<p>牡牛座 4/20~5/20 </p> <p>全体運 運勢に勢いがあり好情報をキャッチできます。あれこれやってみるといいでしょう。試行錯誤すると得るものあり</p> <p>健康運 軽い気持ちで始めた運動が当たり前。試してみても</p> <p>幸運の食べ物 水菜</p>	<p>双子座 5/21~6/21 </p> <p>全体運 遊び心が新しい可能性を呼び込みます。近道を選ばずに遠回りもいいでしょう。下旬は運氣が上昇します。挑戦が吉</p> <p>健康運 つい食べ過ぎてしまいがち。よく体を動かして</p> <p>幸運の食べ物 ナバナ</p>	<p>蟹座 6/22~7/22 </p> <p>全体運 運勢は吉凶混合。気持ちを素早く切り替え、ポジティブに行きましょう。チャンスをつかまえる行く心構えが大事</p> <p>健康運 突然の痛み、発熱に注意。常備薬を確認して</p> <p>幸運の食べ物 マイタケ</p>
<p>獅子座 7/23~8/22 </p> <p>全体運 運勢はスロースタート。時間をかけて取り組めば状況に変化が。思わぬところから助け舟も現れそうです</p> <p>健康運 ビタミンCをしっかり取って風邪を予防</p> <p>幸運の食べ物 キンカン</p>	<p>乙女座 8/23~9/22 </p> <p>全体運 好調運です。努力が実り活躍の機会を得られます。注目されやすいのでおしやれに力を入れて。レジャーが吉</p> <p>健康運 スマホやテレビはほどほどに。肩のストレッチが◎</p> <p>幸運の食べ物 ロマネスコ</p>	<p>天秤座 9/23~10/23 </p> <p>全体運 つまずきを感じたら変えどき。違和感そのままにせず向き合ってみましょう。良い気付きを得られます。掃除が吉</p> <p>健康運 栄養バランスの取れた食事を心がけて</p> <p>幸運の食べ物 キウイフルーツ</p>	<p>蠍座 10/24~11/22 </p> <p>全体運 問題解決の兆しが見えています。友人や知人からの提案に目を向けてみましょう。徐々に成果が出始めるはず</p> <p>健康運 スポーツを楽しめます。筋トレも効果あり</p> <p>幸運の食べ物 ダイコン</p>
<p>射手座 11/23~12/21 </p> <p>全体運 運勢に乱れが。順調だったことにストップがかかるかと思えば、その逆も。やりやすいところから手を付けて</p> <p>健康運 冷えに気を付けて。ストレッチで血行促進</p> <p>幸運の食べ物 ブタン</p>	<p>山羊座 12/22~1/19 </p> <p>全体運 勢いはありますが油断は禁物。手を抜かず最後までびしっと決めましょう。合理的に考えることも大切です</p> <p>健康運 トイレは我慢しないで。肌の保湿は入念に</p> <p>幸運の食べ物 ウド</p>	<p>水瓶座 1/20~2/18 </p> <p>全体運 上昇運です。状況は次第に整ってきますから腰を据えて取り組んで。壁を越えることでよりスゴ技に。金運も好調</p> <p>健康運 胃腸をいたわって。消化の良い食事にツキ</p> <p>幸運の食べ物 クワイ</p>	<p>魚座 2/19~3/20 </p> <p>全体運 人気運に恵まれ運勢は良好。方法を考えているうちに周りやってくれることも多いでしょう。流れに乗って</p> <p>健康運 体を動かさずほどリフレッシュ。サウナも◎</p> <p>幸運の食べ物 生シイタケ</p>



締め切り迫る!

JA道東あさひ酪農協議会 第4回乳製品消費拡大 写真コンテスト

今年も牛乳乳製品消費拡大事業として写真コンテストを実施します。何気ない日常や、明るい農村、明るい乳牛、「酪農や牛乳乳製品を宣伝!」する気持ちをあなたの感性でパチリ!おもしろ写真も大歓迎です!入賞者には豪華賞品をご用意していますので、多くの方のご応募をお待ちしております。

テーマ

- ・「生活の中にある酪農や牛乳の写真」
※牛乳を飲んでいる様子や、牛と人の写真など
- ・「別海町・根室市の酪農風景」
※酪農をやっている感動する日々の風景など。
遠目に人物が入っていてもOKです。



応募資格

組合員及び組合員家族の皆様
JA道東あさひ管内の市民・町民の皆様

応募数

1人 1点

応募方法

- ①JA道東あさひのホームページの応募フォームより
- ②CD-Rを各支所営農課へお持ち頂くか、郵送にて
☆住所・氏名・年齢・電話番号・作品テーマを明記
※いずれも容量は5MB以下、JPEG形式とします。

締切

令和7年1月31日(金)

発表表彰

令和7年3月

審査員

キッチンミノル氏 (写真家・東京在住・「たいせつなぎゅうにゅう」著者)

各賞

- ・グランプリ 1点 賞金: 50,000円 副賞: 乳製品詰合せ5,000円 1年分※
- ・準グランプリ 1点 賞金: 30,000円 副賞: 乳製品詰合せ3,000円 1年分※
- ・特別賞等 10点 副賞: アイスクリームセット 1セット
- ※副賞1年分は毎月1回、12ヵ月にわたりお届けします。

募集要項

- ・著作権は撮影者に帰属しますが、JAが無償で自由に利用することを許諾して頂きます。(広報誌・ホームページ・SNS掲載、事務所内掲示等)
- ・応募作品は未発表のものとし、加工・修正は行わないで下さい。
- ・入賞作品は氏名の公表を前提とします。(非公表を希望される場合は要相談)
- ・著作権や肖像権を侵害していないことの確認は撮影者が行って下さい。
特に人物の場合は被写体の方から必ず了承を得て下さい。

※お問い合わせは
営農部営農振興課まで
(TEL 0153-75-2202)

